

～ 授業は確実に変わりつつあります ～

校長のリーダーシップ

- ・教育課程の管理
・校長の授業参観の充実
・管理職のフルタイムの授業参観 (略案有り)
・授業後の適切な助言
・授業評価票による評価やコメント
・自己診断シートを利用した教員の自己評価
・中途面接等, 評価の積極的な実施
・授業改善につなげるPDCAサイクルの実践
・教職員評価システムの活用
・学校評価の評価項目に反映させた点検, 評価
・自校の取組の家庭・地域への公表
・組織としての機能確立 (報告, 連絡, 相談)
・授業について語り合う場の設定 (平素の授業の成功例, 失敗例など)
・授業者への多方面からの支援
・指導観を変える取組
・学力向上に向けた一人一人の参画意識の向上
・授業改善への教師自身の意識改革

指導体制づくり

- ・校務分掌の見直し
第一分掌: 学校運営 (総務, 教務, 研究, 生徒指導)
第二分掌: 教育課程推進 (学習推進, 芸術文化, 保健体育)
・教材, 教具の全教職員による点検
・教材, 教具, 教育機器の充実と授業での効果的な活用
・ICT (電子黒板, 実物投影機等) の有効活用
・業務内容の精選
・示範授業の実施
・長期休業中の学習会の実施
・サタデースクールの実施
・複式学級の教育課程編成の工夫
・複式学級における学年別指導の対応
・高学年における一部教科担任制の導入
・人的支援の充実

H26年度
各学校で様々な
取組が始まりました!!



学習環境づくり

- ・オープンスペースの閉鎖
・掲示物の精選, 工夫
・ unnecessaryな刺激のない教室
・教室内の整理整頓
・落ち着いた教室空間
・一人一人の作品への配慮

学ぶ意欲の醸成

- ・学ぶ意義や将来とのつながり, 中学校で必要とされる力を考える機会の設定
・身に付けさせたい力の焦点化
・進んで学ぼうとする子ども像の焦点化
・キャリア教育を根底に学ぶことの必要性を実感させる取組
・魅力的で創造的な授業づくり
・主体的に根気強く学べる子どもの育成
・自分で情報を得て行動することを促すための連絡ホワイトボードなどの活用

学級集団づくり

- ・チャイム着席の徹底
・学級経営の充実
・学び合う学習集団づくり
・支持的風土の学級づくり
・居場所が有り安心できる集団づくり
・学習規律の共通理解と指導の徹底
・アサーションなどの取組
・ピア・サポートによる人間関係づくり

特別支援教育の充実

- ・配慮の必要な児童のケース会議の充実
・効果のある支援方法のリスト作成
・スーパーバイザーの活用
・特別支援教育コーディネーターの活性化
・ユニバーサルデザインの授業づくり
・個々の学習特性 (強み, 弱み) の把握
・通常学級に在籍する児童生徒への組織的対応と支援

豊かな心・健やかな体の育成

- ・自尊感情の育成
・自己有用感の育成
・特別活動の充実
・道徳教育の充実
・縦割り班, 異学年交流, 係活動の充実
・健康教育, 体力づくりの充実
・食育の推進
・保健体育の充実

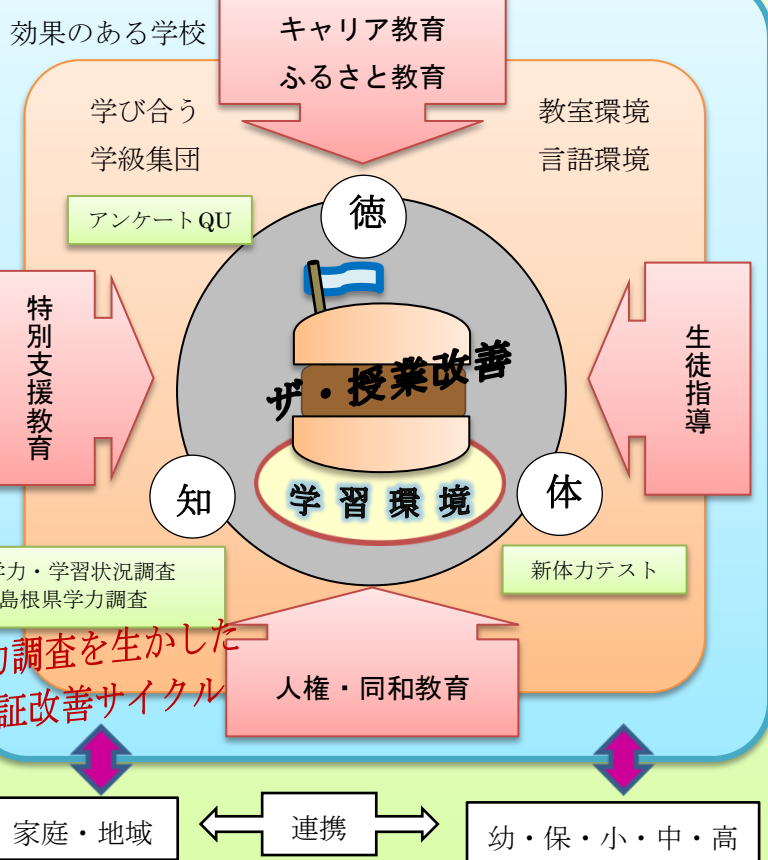
職員集団づくり

- ・ミドルリーダーの育成, 連携
・職員が一丸となる雰囲気づくり
・実践交流会, 語り合いの場の確保
・職員間の密な情報交換
・非常勤, 学校図書館司書, 学習支援員等の効果的な活用
・個業から協業へ
・スタッフミーティング
・平素の授業の語り合い
・職員の健康面への留意
・プロジェクトチームの活動, 定期的なプロジェクト会議
・子どもを語る会の実施
・学習成果を交流し合う場の設定



校内研究・研修の活性化

- ・研究主任を中心とした研修, 実践の充実
・全職員での授業公開, 普段からの見せ合い授業
・先進校視察, 研究大会, 研修会への積極的な参加と, 伝達講習, 報告会の充実
・計画的な研究授業と研修づくり
・指導案審議, 研究協議, 授業評価の充実
・模擬授業での授業改善のポイント共有
・家庭学習の在り方, 宿題の出し方の研修
・複数の視点を持つての授業参観
・研究職員会の見直し
・毎回の職員会議の中に位置付けたミニ研修会
・学力向上に向けた個人研究の勧め
・学校訪問指導の積極的な活用



人との関わりの中から学ぶ授業

- ・地域や公民館等との協力体制づくり
・地域教材や人材の効果的な活用
・キャリア教育の学校経営への重点化
・キャリア教育の視点からの見直し
・キャリア教育に関する校内研修の充実
・将来への意欲や社会性の育成
・学ぶことの意味や職業観につながる体験や講話の実施
・体験活動, 交流学習, 集合学習の充実
・地域コーディネーターの効果的な活用

生徒指導の充実

- ・積極的な生徒指導の推進
・生活目標との関連付け
・児童生徒理解を生かした授業づくり
・いじめ対応基本方針の見直し

学習習慣の確立

- ・低学年からの段階的な学び方学習
・教育委員会と連携した取組
・低学年における学習指導の充実
・一貫した取組
・書く時間, 読む時間の重視

生活習慣の確立

- ・当たり前のことを当たり前にする指導
・あいさつ, 返事, くつろえ, そうじ
・A (あいさつ) K (言葉使い) T (時間を守る) M (身だしなみ)
・メディア接触の時間の軽減
・メディアコントロールへの取組
・生活習慣チェック表の活用
・生活実態調査



家庭学習の徹底

- ・課題の見直し
復習, 調べる, 文章を書く, 復習
・自学の習慣づけ
・自学ノートの活用
・自学ノートコンテストの実施
・プリント配信システムの活用
・中学校区での家庭学習の手引き統一
・家庭学習の習慣化



家庭との連携

- ・家庭学習チェックシートの活用
・養護教諭, 栄養教諭と連携した生活リズムや食生活の安定化
・学習への高い意識の醸成
・忘れ物0への取組
・学校の取組の積極的な発信

同和教育の充実と人権教育の推進

- ・進路保障を柱とした学校運営
・進路保障を進める全校体制づくり
・同和教育を基底に据えた教育の展開
・当たり前のよさをほめる姿勢の意識付け

小中連携

- ・異校種交流学習
・9年間を見通した展開
・9年間のスパンでのカリキュラムの見直し

学校図書館教育の推進

- ・読書指導の充実 (長編小説への挑戦)
・年間指導計画への位置付け
・資料活用能力や発表する力の育成
・司書教諭の時間的ゆとりを生み出すカリキュラムの工夫
・司書教諭, 担任, 学校図書館司書の連携強化
・要約メモを生かした全校活動の場でのスピーチ

～ 授業は確実に変わりつつあります ～

授業の基本型

- ・学習スタイルを設定する
  - ① 課題をつかむ
  - ② 考えをもつ (課題について調べる)
  - ③ 交流する
  - ④ 振り返る
- ・授業フォーマットを作成する
- ・学習方法マニュアルを作成し、活用する
- ・授業の基本型 (パターン化) を習慣化するまで、小中一貫で行う
- ・中学校校区全体で決めた授業の基本型を、すべての授業において行う
- ・授業のシステム化を行う
  - 課題把握 本時のめあてにつながる発問
  - 考えの確立 傍観的な態度をとらせない  
自分の考えを言葉や図などで書かせる (考えの視覚化)
  - 考えの交流 根拠をもとに話し合わせる
  - 振り返り ノートに自分の考えや学んだことを書かせる
- ・学び合い・伝え合いの授業を行う
- ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業を行う
- ・総合的な学習の時間と教科等の学習の関連を図り、相互の学習を深める

課題の把握

- ・全国、県、自校独自の学力調査、アンケートQU等の結果の考察と学力向上策との比較分析をする
- ・既習事項を確認する
- ・プレテスト、レディネスチェック等で、児童生徒の実態を把握する

単元構想

- ・各単元の「身に付けさせたい力」を明確にする
- ・単元のねらいを確認する
- ・単元の指導計画、評価計画を立てる
- ・評価規準を明確にする

見通す

- ・授業の見通しを、児童生徒にはっきり分かるようにする
- ・本時の目標 (めあて・ねらい)、学習課題を、授業の始めに必ず示す
- ・子どもに分かりやすい具体的な文言にする
- ・学習課題を工夫する
  - 調べたい、知りたいと意欲が高まるもの
  - 生活場面に生かせる導入の工夫
  - 日常生活と結びつける
- ・1時間の時間配分を伝える

視覚化・音声化・文字化

- ・本時の課題を視覚化し、分かりやすくする
  - 板書：マグネットシート 短冊形ホワイトボード
  - 色チョーク ラミネートカード
- ・学習の流れが意識できるように掲示の工夫をする
- ・板書した目標を全員で読む
- ・教師が分かりやすく話す
- ・ノートに書く

言語活動の充実

- ・自分の言葉で分かりやすく表現する
- ・声に出して読む活動を入れる
- ・言語事項に関わる年間指導計画を作成する
- ・系統的な指導を行う
- ・語彙を増やすために辞書を積極的に活用する
- ・辞典や新聞、リーフレット、ポスター、図書館資料を活用する
- ・付箋などを活用した要約学習を展開する
- ・調べて分かったことをもとに、考え、表現する授業を行う
- ・多種多様な資料から必要な情報を取捨選択する場面を意図的に授業に組み込む
- ・長文読解で読み取りの力を強化する
- ・作文の時間を導入する
  - 作文、日記、読書ノート、行事後の感想、礼状等
- ・新聞づくりを行う
- ・資料を使って発表する



H26年度  
授業改善に向け様々な  
取組が始まりました!!



宿題

- ・授業と家庭学習が結びつく宿題を出す
- ・教科のバランスを考えた宿題を出す
- ・予習を定着させる
- ・自主学习を工夫する

次の授業

定着

- ・全校テストを実施する (家庭学習の目標)
- ・配信プリントを活用する
- ・反復学習を強化する (漢字、計算、用語)

発展学習

- ・発展的、応用的な内容を計画的に取り扱う
- ・習熟度別課題を準備し、一人一人に応じた内容を取り入れる

学習課題

ザ・授業改善

学習環境



振り返る

- ・ノートやワークシートに、自分の言葉でまとめさせる
- ・振り返りの視点を明確化する
- ・児童生徒に自己評価させる
- ・振り返りカードを活用する
- ・学級全体でまとめる
- ・終末は、頭の中を整理する時間ととらえる
- ・ねらいに関わる簡単な評価テストを行う
- ・考えをまとめる
- ・分かったことをペアで伝え合う
- ・振り返りのカードを使い視覚化する
- ・1分間の振り返りタイムを取る
- ・次時のつなぎを行う
- ・自己決定できる場を作る
- ・スモールステップでの評価を大切にする

ノート指導

- ・学習の足跡が残るようなノート指導を、学年に応じて行う
- ・間違ったところを見直せるようにする (間違いは消さない)
- ・まとめ、気付き、感想が書けるノートを工夫する
- ・どの学級も共通して指導する項目を決める
- ・よいノートを紹介し合う
- ・循環型ワークシートを活用する
- ・効果的なワークシートを作成する
- ・ポートフォリオを活用する

展開

- ・思考を可視化する
- ・個人思考の時間を確保する
- ・ペア学習、グループ学習を効果的に活用する
- ・グラフや写真などの資料を吟味し、提示方法を工夫する
- ・外部講師を活用する
- ・ジグソー法をグループ学習の一つの方法として取り入れる

学習規律の徹底

- ・チャイム着席、返事、挙手発言、話し方、聞き方を指導する
- ・学びの約束を作り指導する
- ・望ましい授業態度を明文化する
- ・話型指導を行う



構造的な板書

- ・黒板の分割の仕方、記号、色彩等を工夫する
- ・児童生徒が参加できる板書を工夫する
- ・一目でその授業の概略が理解できる
- ・記録写真に撮り、研修を深める
- ・板書計画を立てて授業に臨む
- ・ノートとの一体化を図る

教師の意識改善

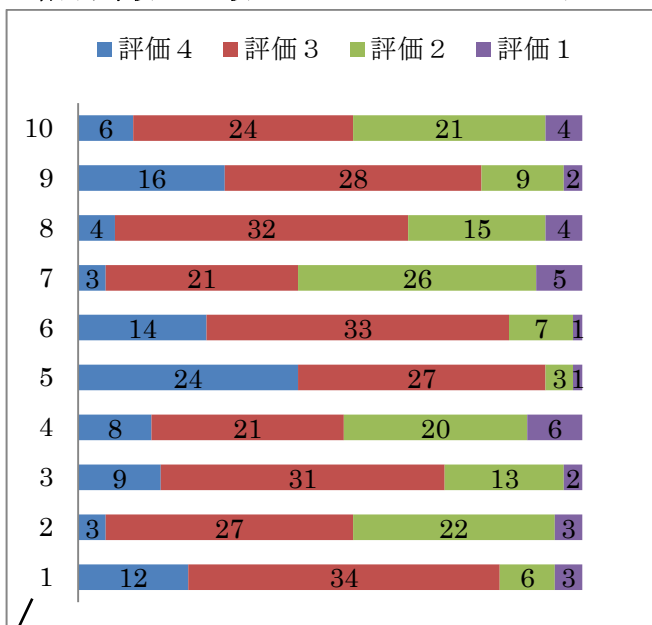
- ・**絶えず授業改善の意識をもつ**
- ・授業の開始、終了時刻を意識する
- ・教師間の授業受け渡しをきちんと行う

2. 「平成25年度全国学力・学習状況調査クロス集計結果～指導と学力の関係等の分析～」に照らし合わせた自校の現状分析

(1) 学力や学習習慣と相関が高いとされる項目についての自校の4段階評価

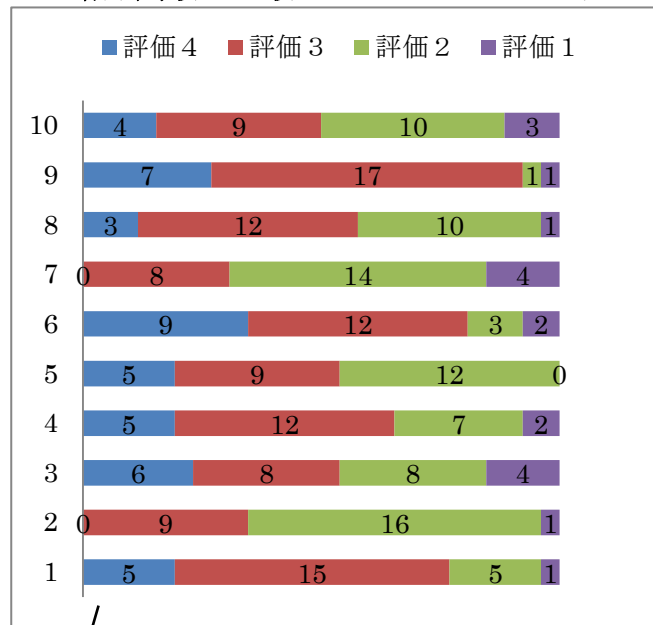
管内小学校：55校

単位：校



管内中学校：26校

単位：校



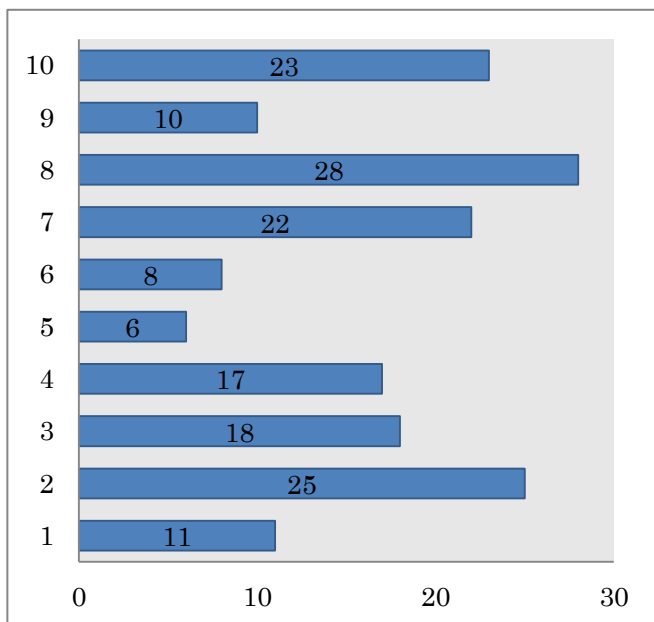
- ⑩家庭学習に関する指導（調べたり文章を書いたりする宿題を出す）
- ⑨学習方法（テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導
- ⑧調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導
- ⑦資料を使って発表する指導
- ⑥国語の指導として書く習慣や読む習慣を付ける指導
- ⑤考えを発表する機会を与える指導
- ④総合的な学習の時間における探究活動
- ③学級やグループ、ペアで話し合う活動
- ②授業の最後に学習したことを振り返る活動
- ①授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動

- 評価4：9割以上の授業で実施・よく行われている
- 評価3：7割以上～9割未満の授業で実施・どちらかと言えば行われている
- 評価2：5割以上～7割未満の授業で実施・どちらかと言えば十分でない
- 評価1：5割未満の授業で実施・十分でない

(2) 改善の必要性が高い項目ベスト3

管内小学校：55校

単位：校



管内中学校：26校

単位：校

